



## 力を合わせて 森を守るために

株式会社東芝 CSR推進室  
佐々木智子さん

### 東

芝グループのCSR報告書は、「森の町内会」という名前の付いた、ちょっとユニークな紙を使用しています。「森の町内会」は、環境NPOのオフィス町内会（東京都港区）が推進する、企業と森を結びつける活動。間伐が進まない森が増える中、企業が間伐費用の不足分を負担し、間伐材を用いた紙を使うことで、健全な森林の育成を支援する仕組みです。

当社では以前から、適切に管理された森林からの木材を原料としたFSC認証用紙を、CSR報告書に使用してきました。さらに一歩進めて「森の町内会」用紙を使うことにしたのは、これがFSC認証紙であり、なおかつ森林を管理・育成する人と企業の「顔が見えるつながり」を象徴したものであったからです。

間伐を行う森として選ばれたのは、本州一広い町、岩手県岩泉町。日本三大鍾乳洞の一つである龍泉洞で有名な岩泉町は、その93%が森林という豊かな自然に恵まれた

町です。

岩泉町で行われた森林見学会で、間伐がなかなか進まない背景にある高齢化や人手不足、資金不足などの問題について、岩泉町長はじめ、町役場や森林組合の皆さんからお話を伺いました。その後、実際に間伐されずに荒廃してしまった森林を訪れると日本の森林が抱えている問題が「情報」ではなく「実感」として迫ってきました。何より、岩泉町にとって豊かな自然は誇りであり、この自然を次世代に残すためになんとかしたいという町民の皆さんの熱い思いを強く感じました。

「山で働く人と、町で働く人が力を合わせ、この活動の輪を広げたい」という伊達勝身町長の言葉通り、この取り組みには町やNPO、製紙会社、紙問屋、印刷会社、企業という非常に多くの主体が関わっています。それぞれの人の顔が見える、いわば「紙のトレーサビリティ」とも言えるこの取り組み。小さな取り組みではありますが、立場を超えて人の気持ちを引きつける力が大いにあります。

当社ではCSR報告書だけでなく、社会貢献活動レポートや熱で消せるトナー「e-blue（イー・ブルー）」のカタログにもこの用紙を使っています。ホームページなどでこうした取り組みを紹介することで、一人でも多くの人に「顔が見えるつながり」を感じてもらえればと思っています。